

九州支部だより 11/30 九州支部研修会の印象記



北川 修嗣

冬の足音がすぐそこまでやってきているはずなのに季節はずれの陽気が続いていた2018年11月30日、九州支部主任者研修会が福岡市東部に位置する（一財）九州環境管理協会の会議室で開催されました。本研修会は、九州支部により、九州・沖縄地区を会場として年1回開催されており昨年は北九州国際会議場で開催されました。今回の会場である（一財）九州環境管理協会は、九州支部委員を努められる川村秀久氏が勤務されており、大気汚染・水質汚染・土壌汚染等環境問題に取り組み、その課題解決に取り組まれている協会です。

今回の参加者は30名余りで、九州各地に留まらず、本州からも参加されていました。

開会は13:30～で、九州支部長の島崎達也氏の挨拶から始まりました。今回の講演は、法令改正への対応が差し迫った予防規程のガイドについて、緊急時の対応に密接に関係する消防の対応体制について、一般的には知られていない文化財におけるX線の利用についての講演と盛りだくさんで興味ある内容でした。

最初に、原子力規制庁放射線規制部門上席放射線安全審査官の塩川尚美氏から、「放射線障害防止法関係の最近の動向～予防規程のガイドについて～」と題した講演が行われ（写真1）、主として放射線障害予防規程のガイドについてお話がありました。

法令改正に伴う対応として放射線障害予防規程を変更し、2019年8月30日までに届け出ることが規定されました。届出期日が迫っていることもあり参加者の関心も高く、筆者自身も予防規程変更のポイント等についてのお話しが聞けるであろうと期待して聴講しました。

まず、法令改正の現状として、スケジュールについて話があり、防護措置については今回の講演には含まれていない旨の説明があり、本題の予防規程のガイドについての話が始まりました。ガイドの内容

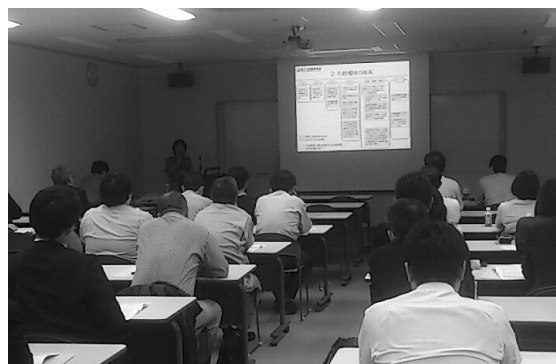


写真1

はそれに限定されるものではなく、法令及び規制に照らして適切なものであれば問題なく、ガイドで示す例示は一例であり使用者等の実態を踏まえ、自らが安全管理を確実に実施するために必要な事項を予防規程に定める必要があるとの話でした。教育訓練の項目・時間数等については主任者が自施設の実態を把握して安全管理を実施できる予防規程を考えて作成する必要があるとのこと。

職務及び組織については責任者及び指揮系統を明確に定めることを求めている、主任者の職務・権限についても明確にして予防規程を遵守できるような立場に位置づけることを求めているとのこと。主任者の裁量が広がると共に、責務は益々重大になると思いました。

責任者は予防規程で定める事項毎について規定が必要で、主任者が複数の責任者を兼務する事は可能とのこと。各事業所が実態に応じて組織的に機能する責任者を選任する必要があると感じました。

今回の法令改正に係る予防規定見直しでは、業務の改善、危険時の措置の強化、危険時の措置を講じた場合の情報提供、実態を踏まえた教育訓練実施等を予防規程に反映するように要求されています。これまでと違いマネジメント層を含む組織体制、公衆及び報道機関等外部にも正確な情報の提供、外部か



写真 2

らの問合せに対応する方法を定めることを求めている点と、業務の改善や予防規程等について定期的な評価・見直しを自主的に行う改善活動が重要であり、それらを規定する放射線障害予防規程が非常に重要であると話されたことが印象的でした。

次の講演は、福岡市消防局警防部警防課機動救助係の城剛司氏の「N災害に対する消防の応援体制について」と題したお話があり（写真2）、NBC災害（N: 核, B: 生物剤, C: 化学剤）について判りやすく説明いただきました。

消防の対応は、「福岡市火災予防規程」に基づき活動されているとのことでした。放射線障害防止と同様に火災に関する予防規程が設けられており、何事においても予防規程が大切である事を再認識しました。

N災害時に現場へ出動する消防隊は、「指揮隊」「検知隊」「救助隊」「除染隊」等様々な役割を持った消防隊が出動し活動するとのことであり、各部隊の連携が大切で年間を通して訓練を行っているとのことと非常に頼もしく、また日頃の訓練が大切であると感じました。

消防から災害時のお願いとして、災害発生場所（管理区域内外等）、保有する放射性物質、放射線の漏洩等についての情報提供及び多数傷病者発生時には汚染検査の協力、水で除染した場合の除染水の処理について協力を求められました。各事業所の放射線取扱主任者は、災害時に管轄の消防局との緊密な連携が必要であり、今後も今回の様な研修会等による情報交換が必要であると思いました。

2019年にはラグビーワールドカップが日本で開催される予定で、九州では福岡、熊本、大分の各会場で競技が行われます。また2020年にはオリンピック、パラリンピックが開催される予定です。これら



写真 3

の大きな大会に備えてNBC災害の防止が不可欠であり、福岡市消防局機動救助隊の任務が重要であると感じました。

最後の講演は、奈良国立博物館 学芸部保存修理室の鳥越俊行氏による「文化財におけるX線の利用—X線CTスキャナと蛍光X線分析装置—」と題したお話がありました（写真3）。鳥越氏は奈良国立博物館の前に九州国立博物館に勤務されており、今回の九州支部研修会の講演を引き受けていただいたとのこと。文化財の調査、博物館においてX線をいかに利用されているか、どのようなX線装置を使用しているのか興味深く聴講しました。文化財は貴重な資料であり移動等が困難なため、軽量・持ち運びが可能であるハンディ型の蛍光X線分析装置を利用して絵画の顔料同定、金属製工芸品の成分分析等の調査を行い、博物館においては等身大の文化財を短時間で高精度に構造調査できる文化財用大型X線CTスキャナを使用されているとのこととお話がありました。

CT装置で撮影した仏像の画像紹介があり、仏像内部が鮮明に写されていました。虫食い箇所判別、内部が空洞である仏像、空洞箇所に納入品（経巻や舍利容器等）がびっしり詰められている画像は非常に興味深いものでした。CT装置による実用調査は近年になってからのことなので、今後文化財用CT装置の普及、性能向上により歴史的な新たな発見が発表されと感じました。

研修会終了後には、最寄り駅である香椎駅前の居酒屋において情報交換会が開かれました。玄界灘の美味しい魚と九州各地の焼酎等で、楽しく活発な意見交換が行われ大いに盛り上がりました。

((株)千代田テクノル)